

第23歌 ペネロペ、乞食（オデュッセウス）の正体を知る

[ペネロペ](#)は老女から、[オデュッセウス](#)が帰国し、求婚者たちを討ち果たしたことを聞く。ペネロペは容易に信じようとしませんが、二人だけが知る寝室の秘密をオデュッセウスが話したので、ようやく納得する。翌朝、オデュッセウス父子と二人の下僕は、[ラエルテス](#)の農園へ向かう。

内容

老女、ペネロペを起こす 老女[エウリュクレイア](#)は二階に上がった。「起きてください奥様、[オデュッセウス](#)様がお帰国なされ、求婚者どもを討ち果たされました。あの他国の客人がそうだったのです」[ペネロペ](#)は最初本気にしなかったが、やがて喜んで起き上がった。多数の求婚者たちをたった一人でどうやって討ち果たしたのかと、妃は老女に訊ねた。老女は、「私は見ておりません。呼ばれて行ってみると、全てが終わった後でした。殿様は奥様をお呼びになっておいでです。さあ、行ってお二人でお会いになってください」といった。

ペネロペ、夫の帰還を信じない [ペネロペ](#)は、「婆やよ、しかし、そのようなことが本当であるはずがない。きっと求婚者は、神によって悪行の報いを受けたのでしょう。[オデュッセウス](#)は遠い地で、命を失ったのですよ」といった。老女は、「では明らかな証拠を申し上げます。その人の足にはあの傷痕があるのです」といった。妃は、「神の御心は量り難いものです。ともかく行ってみましょう」といった。

ペネロペ、オデュッセウスと相對する 妃は広間へ行き、[オデュッセウス](#)と向き合って座った。妃がずっと黙っているのので、[テレマコス](#)は、「母上、なにをなさっているのです。苦勞を重ねて帰った夫を迎えて、近寄ろうともせぬ女が他にありましようか」といった。妃は、「息子よ、私の心は驚きでしびれてしまっているのです。この人が本当に夫ならば、確認する方法はあります」といった。オデュッセウスはにやりと笑い、[テレマコス](#)に向かって、「息子よ、母には存分にわしを試させておけばよい。我らはむしろ、これからどうするか考えよう。国許で一人でも殺害した者は亡命するものだが、我らは多数の王侯たちを殺したのだ」といった。[テレマコス](#)は、「それは父上がお考えください。我らは勇んで父上に随います」と答えた。

オデュッセウス、偽りの婚礼を行う [オデュッセウス](#)は、「ではわしの考えを言おう。そなたらは身なりを整え、女中たちには晴れ着をつけさせよ。楽人には豎琴で甘美な歌を奏でさせよ。町の者たちに、婚礼を祝っていると思わせるのだ。我らは屋敷を出て、農園に行くつもりだが、それまで求婚者の殺害の噂を町中に広がらせてはならぬ」といった。一同は彼の言葉に従い、楽人に歌を奏でさせ、男たちは舞い、女たちは足を踏み鳴らした。屋敷の外の者は、「誰かが奥方を娶ったのじゃな。ひどい女じゃ、夫が帰るまで屋敷を守り通す辛抱もできぬとは」と口々にいった。

オデュッセウス、二人の秘密を話す [オデュッセウス](#)は湯浴みをし、美しい衣を着て、[ペネロペ](#)の前に座った。「おかしい女じゃ。苦勞を重ねて帰ってきた夫を迎えて、かたくなに離れているような女は他におるまい」[ペネロペ](#)は、「私はおかしくなどありません。さあ婆やよ、主人の寝室からベッドを運び出して、寢床の用意をしておあげ」といった。オデュッセウスは、「これは驚いた。あのベッドを運び出せるものか。あのベッドはわしが造ったものだ。寝室の中に生えていたオリブの株を支柱とし、そこにベッドを組み上げたのだ」といった。それを聞くと、[ペネロペ](#)は泣きながらオデュッセウスに抱きついた。「あなたが私たちの閨の秘密をお話になった今は、かたくなな私の心もほぐれました」オデュッセウスも愛する妻を抱いて泣きつづけた。[アテナ](#)は二人のために夜を長くしてやった。

オデュッセウス、予言された運命を語る [オデュッセウス](#)は、「奥よ、まだ試練は終わっておらず、我らには長く苦しい難事が待っている。冥府にて、[テイレシアス](#)はそう予言した。しかし今は二人

抱きあい楽しくやすらおうではないか」といった。[ペネロペ](#)は、「その試練とはどんなことでしょうか」といった。[オデュッセウス](#)は、「[テイレシアス](#)はわしに、[権](#)を持って、海を知らない人間の国に着くまで、町々を訪ね歩けといったのだ。途中わしに会った男が、わしが持っているのは**穀竿**であろうと申したなら、そのとき**権**を地に刺し、[ポセイドン](#)に生贄を捧げる。ついで国許へ帰って、神々に百牛の生贄を捧げよとのことであった。わしは海から離れた所で、安楽な老年を送り生を終えるであろう、と予言者は語った」[ペネロペ](#)は、「神々のご加護があれば、望みはあるはずです」といった。

オデュッセウス夫婦、身の上を語り合う 二人が語り合っている間に老女は寝床を用意した。二人は女中に寝室へ案内され、心楽しく寝床へ歩み寄った。一方[テレマコス](#)と豚飼と牛飼は踊りをやめ、屋敷の中で眠りについた。二人は心ゆくまで愛の交わりを楽しむと、互いに身の上を語りつつ、語らいを楽しんだ。[オデュッセウス](#)は[キコネス](#)族を討ったところから語り始め、[パイエクス](#)人が船を出して故国へ送ってくれたことまでを、縷々として物語った。語り終わると二人は眠った。

オデュッセウス、父の農園へ向かう 朝になって、[オデュッセウス](#)は起きると、「奥よ、この屋敷にあるわしの財産は、そなたが面倒をみてくれ。これからわしは父上に会うため、農園へ行く。父上には大層心配をかけたのでな。奥よ、日が昇れば、わしが討ち果たした求婚者の噂が広まるであろう。そなたは、二階の間でじっとしておれ。誰にも会ってはならぬぞ」といって、武具を身につけ、[テレマコス](#)、牛飼、豚飼にも武器を持たせた。彼らは屋敷を出て、町の外へ向かった。

関連

人名

エウリュクレイア	老女
ペネロペ	オデュッセウス の妻
オデュッセウス	求婚者を討った
テレマコス	オデュッセウス の子
エウリュノメ	女中頭
ヘパイストス	オリュンポス の神
アテナ	オリュンポス の神
ヘレネ	ゼウス の娘、 トロイア戦争 の原因になった女
エウマイオス	豚飼
ピロイティオス	牛飼
ポセイドン	海をつかさどる神
テイレシアス	予言者
アイオロス	風神の支配者
カリュブディス	海の深淵
スキュラ	怪物
カリュプソ	仙女、 オデュッセウス を引きとめた

地名

イリオス	トロイア のこと
イタカ	オデュッセウス の故国
オリュンポス	神々のすみか
アルゴス	ヘレネ の出身地

[オケアノス](#) 世界の果ての河
[テレピュロス](#) [ライスリュゴネス](#) 族の町
[オギュギア](#) [カリュプソ](#)のすむ島

[前へ](#) ... [オデュッセイア](#) ... [次へ](#)